

平成 29 年度 第 2 回弘前市立図書館協議会会議概要

◆平成 30 年 3 月 24 日（土）14：00～16：00

◆弘前市立図書館 2 階 会議室

◆出席委員：松本委員長、高嶋副委員長、工藤委員、竹内委員、境委員、田澤委員、成田委員、島田委員、渡邊委員（全 9 人出席、欠席なし）

◆弘前市立図書館側：庄司図書館・郷土文学館運営推進室長、神相馬ライブラリー総括主幹、（株）図書館流通センター山谷弘前市立図書館長、菊池業務主任

庄司室長	（あいさつ、出席者紹介 省略）
委員長	それでは定刻となりましたので、平成 29 年度第 2 回図書館協議会を開会いたします。 では会議のほう、はじめます。 まず、案件 1 平成 29 年度弘前市立図書館の事業実績等についてご説明をお願いいたします。
庄司室長	それでは事業の内容につきまして、教育委員会の直営事業とそれから指定管理者の事業と 2 種類ございます。 まずは直営事業のほうから。資料の 1 ページ目、平成 29 年度弘前市立図書館の事業実績、これは 29 年 12 月末現在です。上から 7 つ目、初級古文書講習会、その下、中級古文書講習会、それから上から 3 分の 2 くらいにあります古文書の補修・複写事業、そして最後に古文書等デジタル化推進事業、これが今回の主要事業となります。2 ページ目、相馬ライブラリーの事業については相馬ライブラリーのほうから。 初級古文書講習会、中級古文書講習会につきましては、図書館で所蔵しております古文書をテキストといたしまして、初心者向け初級と、中級の講習会を実施いたしまして、それぞれ講習会を行っています。初級・中級合わせてのべ 64 名が受講しております。この種の古文書講習会につきましては 2003 年から始まりました。29 年度からの新たな事業では古文書等デジタル化推進事業があります。102 点の資料をデジタル化いたしまして、それを 21 日の公開シンポジウムのインターネットで公開いたしました。URL につきましては、チラシの中に QR コードが、アップルウェーブのほうから出

神相馬ライブラリー 総括主幹	される情報誌タウン、こちらのほうにも掲載されています。2 ページ目、相馬ライブラリー事業に関しましては相馬の担当から。 相馬ライブラリー神です。相馬ライブラリーの事業につきまして、「おはなしの宝さがし」というタイトルで、月 1 回毎月第 2 日曜日を選出して開催してございます。地区の方を対象に、地区の大きな行事が第 2 日曜日に重なる時は前後の日曜日に実施しております。参加者は 72 人実績になってございます。以上です。
山谷館長	今、相馬ライブラリーと教育委員会のほうで報告されたこと以外が図書館ということになりまして、本館と岩木図書館、それとこども絵本の森となっております。それぞれにおいて開催日時、参加者等についてはお手元の 1 ページ、もしくは 2 ページをご覧くださいと思いますが、この他に新しく企画したものがいくつかございますので口頭で申し上げたいと思います。 まず、本館のほうですが、弘前図書館としては初めてですが、バリアフリーの映画の上映会を行いました。大変盛況でございまして、ほぼ満員の 55 名ぐらいの参加がありました。それとロビーコンサート。本館 1 階ロビーでコンサートという形で、いろいろと音響等のことがありまして、なかなかうまくいかないということがありました。図書館としては初めてのコンサートでございます。それから、あと 2 つございます。市民講座、弘前市民の方自らが講師になって弘前の文化についてお話をさせていただくという企画でしたが、第 1 回目として大阪屋さんの福井社長にお話をいただきました。お断りをしなければいけないくらい参加申し込みがありまして、これもまた大盛況ということでございます。最後にボードゲーム。世界各国のボードゲームで遊ぼうという企画。これもまた盛況でありましてこの 4 点が主に 29 年度新規企画提出したものであります。 そして次のページの岩木図書館ですけれども、夏休みの期間、「ガリレオ望遠鏡をつくろう！」は子どもたちに簡単な望遠鏡を作ってもらおうということで、相馬の天文台の藤田先生に講師になっていただいて、お話をいただきながら作っていく。これも子どもたちに大変評判のいい講座となりました。もう一つは、年が明けてからですが、こぎん刺し教室「初級者のためのこぎん刺し教室」というのを実施しましたが、10 組ということでありましたけれども、たちまちのうちに満員になって、これも市民の興味が大変高いのかなと。

	最後にこども絵本の森ですけれども、ここはですね、ここが主体となって、弘前市立図書館には4つの館がありますので「4館スタンプラリー」というのを今年度は実施いたしました。本館とこども絵本の森はわかっているけれども、岩木図書館だとか相馬ライブラリーのことはなかなかわかってないという市民の方もいらっしゃいましたので、市立図書館4館の認知度を高めるという意味も含めてですね、今年度開催しました。この「4館スタンプラリー」ということについては今後も実施していきたいというふうに思っております。以上、資料がなくて恐縮でございますが、口頭で説明させていただきます。よろしくお願いいたします。
委員長	それでは只今、平成29年度弘前市立弘前図書館事業実績等についてご説明いただきましたけれども、蔵書数や図書館利用状況について説明をお願いします。
菊池業務主任	それでは私から。図書館の菊池と申します。よろしくお願いいたします。 蔵書数及び図書館利用状況について3ページ。蔵書数については、弘前図書館が平成29年12月末で495,181冊です。購入図書数等の推移は6,693冊ですが、平成29年12月末の購入冊数です。最終的には例年と同等の数になると思います。私からは以上です。
委員長	ただいま平成29年度の事業実績等についてご説明頂きましたけれども、何か今年度の事業実績について、ただいま説明があったことに対してご質問ご意見等ございましたらお願いいたします。
委員	弘前図書館、岩木図書館のほうで、新規事業でバリアフリーの映画上映だとかロビーコンサート、市民講座、ボードゲーム、望遠鏡、こぎん刺し等行われたということで、それぞれすごくおもしろそうだというふうに感想を持ったんですけれども、このあたりと本、図書館とのつながりというか、どのような形で作っておられたんですか。
山谷館長	第一の理由としては、図書館に一回も来てないような新規図書館利用者の開拓ということで行いました。それが一番大きな理由ですけれども、既に利用されている方たちにも、今まで以上に図書館の魅力を知ってもらおう。そういう趣旨で始めたものでございます。それに尽きると思います。
庄司室長	主催者のほうから。私どもとしては、図書館は、社会教育施設としての図書館というのがまずありまして、大人のための社会教育、

委員	そういったものを考えたうえで主催者として担当しております。
菊池業務主任	これはたとえば、バリアフリーに関わる映画の内容に関連した本としてはこういうのがありますよ、といったふうに紹介するという形なんですか。
委員	資料のバリアフリー映画会なんですけれども、原作者や作家さん、または絵本作家さんの講演会というのも、メリットを考え、開催するという形になっています。
委員長	その他ご質問のある方はいらっしゃいますでしょうか。
委員	購入図書の数なんですけど、一般図書と児童図書という区別でしかないんですが、図書館はいろんな種類の本があって、たとえば一般図書っていうところに雑誌とかムック系も入るんですよね。どういう意味なんですか。割合的にどうなのでしょう。一般でくくられても、内容がどんな本が多いか。ひとくくりではちょっと具体的に見えないなというような気がしたので。ビジネス書が多いとか、いろんな、どの本が一番購入的に多いのか。または貸出的にどの本が多いのか、これだとちょっとわかりにくいなっていう気がするんです。ましてや高齢化社会なので、高齢者に向けてどんな本があるとか、そういう何か目的をもって、どんな本を買っているのか知リたかったんです。
委員長	そういうデータそのものっていうのはあるんですか。この分類で本が図書館にこれくらいあって、これくらい貸し出されているっていう。
菊池業務主任	購入した資料と貸し出された資料の2種類があります。購入図書は分類別に購入冊数がわかりますし、貸出冊数もどの年齢層、年齢別に貸出の状況を確認することができます。そういった資料は出してないですがデータの抽出は可能です。
委員長	もし可能であればそうしたデータを作っていただけると比較的こちらとしても検討しやすくなると思いますので、ご検討いただければ。
庄司室長	ただ、誰がどういう本を借りたかっていうのは、あまり激しく追ってしまうとちょっと厳しい。個人情報に関わってくるから。
委員長	年齢別ではわかりません。年齢階層的にはわかります。
委員長	ご検討いただければと思います。その他ございますか。
委員長	岩木図書館やこども絵本の森などは貸出者数や貸出冊数は結構増えているんですけども、弘前図書館はここ数年若干伸び悩んでいる。数字が多いからどうということではないんですけども、貸出

菊池業務主任	者数も、おそらく平成 29 年度もこのままだと平成 28 年度なみにはいかないだろうなという感じもしますし、このあたりを原因としてはどのように分析されていますか。 貸出冊数、貸出者数についてですが、貸出冊数につきましては今のところ前年度より多くなっています。貸出者数の方ですが、貸出冊数が無制限になったことによって、一人で何冊も借りられるようになり、従来であれば家族のカードも使って何人分ものカードで借りていたものが、一人のカードで済むようになったため、貸出者数は前年度を下回るようになったと考えています。
委員長	なるほど。そうすると、どちらかというと今のデータのほうが正しい現実にあったデータということですね。
委員	無制限になったっていうのは、図書館の事業としてはすごく借りやすいですね。とても心が広くなったような感じがします。自由になれるっていうか。私は家族全員分のカードを使って借りてたんですけども、非常に心が豊かになる。
委員長	移動図書館の利用について、図書館まで来なくても、ちょっと利用したいなっていう時に便利だと思います。 移動図書館の数字についても、貸出者数が減ってるのはどうしてだろうと思ったのですが、要は、一人で何冊も借りられるようになったということですね。その他何かございますか。 そうしましたら、平成 30 年度の事業計画の話にも関わってくると思いますので、次に移りたいと思います。 では続きまして、平成 30 年度弘前市立弘前図書館運営方針について説明お願いいたします。
庄司室長	別添 1 の資料、平成 30 年度の弘前市立図書館運営方針、それにつきましては、平成 29 年度と全く同じ内容です。
委員長	もし何かお気づきのところがございましたら、出していただけたらと思います。よろしいですか。 では続きまして平成 30 年度弘前市立弘前図書館の予算について説明お願いいたします。
庄司室長	平成 30 年度予算の内訳について、6 ページと 7 ページです。6 ページ目は性質別構成、7 ページは事業別内訳となります。性質別では大半が委託料となっております。内訳といたしましては指定管理料、約 1 億、それから追手門広場の管理料これが約 8000 万、ですのでこれを図にしたものが下のグラフになっています。なお、需用費につきましてはその内の大半が光熱費となっています。

	続きまして 7 ページ、事業の内訳です。そちらに関しては、指定管理料、それから左側の追手門広場の管理料、平成 29 年度からすすめております古文書デジタル化、事業としては第一期、第二期ということで、その中で一番大きい部分を占めるのは撮影とインターネットの費用で約 2300 万となっています。
委員長	ありがとうございます。ただいま平成 30 年度弘前市立弘前図書館の予算について説明をいただきました。何かご質問やご意見がございましたらよろしくお願いいたします。ここでいう報酬、給料、職員手当というのはあくまで直営部分の話ですか。
庄司室長	給料というのは正職用の給料、報酬というのは非常勤嘱託員の給料でございます。
委員	追手門広場の管理費というのは具体的には何ですか。
庄司室長	まず管理費の中には清掃と修繕などがありまして、清掃業務、空調、鼠・昆虫駆除など細々としたものが含まれます。除雪、あとは定期点検、こういったものが管理費になります。
委員	というのは、冬来た時に追手門広場のところに雪が大変積もっていて、普通の通路が通れなくなっていて、除雪ができていなかったのかと思ったんです。それと上の屋根っていうか、あれから雪がぼたぼた落ちてくるから危険ということで、その下を通ってはいけないということで、一般の方が通れない。雪の時、冬あったんですけども、そういうのもこの管理のところから出ていろいろと対策しているということでもいいんですかね。危ないんだよね、冬。
庄司室長	予算の範囲内ということです。それ以外は観光協会とか笹森体育館、そういった方々と協力して除雪しています。ある程度積もらないと業者に依頼するという状況にはならないです。 危ないですから通らないでくださいと、ロープを張ったりバリケードを作ったりしています。
委員	地下に車停めて、そこから追手門の横を歩いて図書館へ来るという形なので、通れなかったということが何度かあったので。やっぱり利用者としては子どもさんも多いので、あそこは危ないエリアに冬場はなるなって気にはなっていたんです。屋根の形が悪いのか落ちてくるんだよね。
庄司室長	あそこも雪止めがついています。
委員	造りが雪国のつくり方の屋根の感じなのか、結構危なっかしいし、見ていたので。すみません、余計になっちゃったかもしれないんですが、ちょっと気になったもんですから、追手門広場のことが。

委員長 委員	ありがとうございます。 ありがとうございます。その他ございますか。 古文書デジタル化に関する業者さんっていうのは市内の業者さんなんですか。全国的にやってるところなんですか。市内とかに業者さんはあるんでしょうか。
庄司室長	このデジタル化は、すでに作成されている国文学研究資料館のデジタル化の資料などがありまして、それらと横断検索ができないとどうしても現実的な利用には適さない。そのレベルの技術を持った業者さんは市内にはないです。
委員長	ありがとうございます。他にございますでしょうか。 この予算なんですけれども、特に図書館に関わるんですけれども、今年度と比較するとどの程度増減があるのか、というところが気になるんですけれども、たとえば、資料整備事業というのは本をどのくらい購入するかということになるんですか。
庄司室長	この資料整備事業の費用というのは、平成 29 年には資料整備事業として古文書等デジタル化推進事業の費用に含まれていました。この整備事業のほうは、補修したり複写したりが主な内容でございまして、これと古文書デジタル化と一緒にあったために資料整備事業費用自体は激減しております。ただこれは中身が変化したわけではなくて、古文書等デジタル化推進事業と独立した形となったためです。
委員長	古文書等デジタル化推進事業というのはどちらかというと本当のデジタル化に関するもので、資料整備事業というのはどちらかというと館内での複写などに関するということですか。
庄司室長	複写、補修です。
委員長	蔵書の購入費用とかそういうのは、図書館の管理費っていうところにあてはまるのですか。
庄司室長	図書館管理費の中に含まれます。
委員長	そうするとあとは指定管理者さんのほうでどのくらい本を買うのかというのはご判断されるのですか。
庄司室長	自由裁量ではないです。指定管理の協定を結ぶ時に、ある程度の目安が決まっています。その枠に従ってもらいます。
委員長	委託料は最初から契約されてるお金で決まっているということですね。 図書館自主事業というのは今年度でいうとどれが図書館自主事業にあてはまるんですか。

庄司室長 委員長	古文書講習会の事業です。 ここでいう図書館自主事業というのは図書館直営の自主事業ということですね。それが 14 万っていうのは適正かどうか判断しにくいんですけども。あとでまたご報告があると思うんですけども、古文書デジタル化に関連して様々な講座やシンポジウムが行われているみたいなので、もう少しあってもいいのかなと思ったりもするんですが。
庄司室長 委員長	そちらに関しては古文書等デジタル化事業費などもあります。 その他にございますか。 では続きまして、案件 4 についてです。平成 30 年度弘前市立弘前図書館の事業計画について、ご説明お願いいたします。
庄司室長	それでは資料の 8 ページ。古文書講習会初級、同じく中級、古文書の補修・複写事業として古文書等デジタル化推進事業。内容的には古文書講習会は平成 29 年度と同じです。古文書の補修・複写事業につきましても平成 29 年度と同じです。古文書等デジタル化推進事業につきましては、平成 29 年度に 102 点デジタル化したけれども、30 年度には残りをデジタル化していきます。こちらのほうを 29 年度よりさらに強化して、多くの資料をデジタル化していきます。
相馬ライブラリー 総括主幹 山谷館長	相馬ライブラリーにつきましても、昨年と同様におはなし会を開催してまいります。以上です。 図書館のほうですけど、定例的な行事としましては、29 年度と共通の感じで進めていきたいと思っております。続いては記載されている通りですけども、10 ページのところにあります、先ほども口頭で申し上げましたようなイベントですけども、ここに記載されているものもありますけど、記載のないものもございます。たとえば市民講座、ロビーコンサート等書いてありますけれども、その他にもですね、今年の 7 月にこども絵本の森が開館して 5 周年になるということを聞きましたので、まだ計画中にはありますけれども、記念のイベントを開催していく計画でございます。その他に調べる学習コンクールというのが、全国的なのがあるわけですけども、県内ですでに先行している自治体がありますが、弘前図書館も平成 30 年度は実施していきたいというふうに考えております。
委員長	ありがとうございます。ただいま平成 30 年度弘前市立弘前図書館の事業計画を説明していただきましたが、来年度の内容になります。ご意見ご質問等いただければと思います。

委員 山谷館長 委員長	ボードゲームは実施しますか。 ボードゲームは来年度も実施したいと思っています。 それは今年度のボードゲームの集まりが比較的良かったから来年度も、ということでご質問されたということですか。
委員 菊池業務主任	予定があって参加できなかったので、参加したいと思って。何歳ぐらいのお子さんが多かったですか。 去年は小学生が多かったです。
委員 委員	ありがとうございました。それではお願いします。 ヒロロさんとかで読書したりボードゲームをしたり、明日もヒロロであるんですが、遊びながらつながりが持てるそんなところがあればいいと思います。
委員長	確かに図書館を拠点として新しい活動、市民交流とか。前回もあったような気がしますけれども、そういう意味で今おっしゃられたことってまた新しいつながりが図書館でできるのかなという気がします。ぜひ検討していただけると。
委員 山谷館長	調べる学習コンクールと読書感想文コンクールは別ですか。 読書感想文コンクールについては8ページの5行目にあります。今回で48回目となります弘前市の小・中学生読書感想文コンクールと、調べる学習コンクールというのは別のものであります。 県内では八戸市立図書館、三沢市立図書館、十和田市立図書館、つがる市立図書館で行っておりますので、弘前市もぜひ。
委員長 山谷館長	調べる学習コンクールは地区で行うんですか。 調べる学習コンクールというのはですね、地区で行わなければならないんです。弘前市で地区の優秀作品上位の何名かを全国のほうに推薦してその結果、文部科学大臣賞ですとかが決まっていきます。
委員長 山谷館長	図書館を使って何か文章を書くということですか。 それぞれの図書館で規定が若干違うんですけども、たとえば三沢市ですと三沢市立図書館にある本を使ってというふうに決まっていて、八戸市ですと八戸市立図書館であれ八戸のお子さんであれば小学校の図書室でもいいんです。 弘前市も小学校中学校のお子さんだけではなく、一般の大人の方も応募してもらおうというのもいいと思います。
委員 山谷館長	それについて職員の方のご指導とか何かついてくださるんですよね。 成功している図書館に聞きますと初めてやる子どもさんはわか

	らなくて、特に小学校の子どもさんは途中までいくとどのようにして本を探せばいいのかということがあるようでして、こちらから出前講座みたいな、調べ方講座みたいなものを図書館で開設したいと考えています。
委員 山谷館長	大体の時期は決めていますか。 大体、見ていますと夏休み、9月中旬くらいに提出してもらっているというのが多いです。
委員長	そうすると学校側への周知というのはどのくらいまでにするといいのですか。
委員 山谷館長	7月終りには夏休みに入りますので。 弘前の場合48年間続いている読書感想文コンクールがあって、その他に調べる学習コンクールに参加していただけないかということですので子どもさんたちには大変と思いますが、一応5月くらいから学校に案内を開始したいと考えています。
委員長	読書感想文コンクールと調べる学習コンクールの両方やるということに関して、何かこうしたほうが受け入れやすいとか、学校の立場からこうしてほしいという要望などありますか。
庄司室長	子どもたちの反応がまずある。それからだと思うんですけども、子どもたちより先に先生たちに手がかりが必要で、それでどう導くか。指導とか資料とか材料とかがないとありがたいと考えています。
委員	いきなりコンクールと言わないで、調べる学習の調べ方みたいな導き方など教えがあってから、ノウハウがあって、わかってからいいのがあったらコンクールに出してみよう。いきなりコンクールというと競っちゃって、もうできてるものしか相手にならないような告知の仕方になってしまうので、これからやりたい人にとっては調べる学習がどんなものか、初歩的なところを図書館とかが教えてくださってから取り組むほうがソフトかなと。いきなりコンクールに出してだと子どもたちきついよね。
委員	何を対象にしたらいいですかということが私自身疑問です。理科的なものなのか、歴史的なものなのか、社会的なものなのか、何に関して調べるのかということが難しいし、どんな疑問があって、そうしてわかりました、今後こういうふうにしたいとか、それに基づいて書けばいいんだよというガイドがあれば。
山谷館長	先程お話ししましたが新年度初めてやる事ですので、わからないことが多いと思いますので、いろんな資料、調べ方についても、テ

委員	ーマの設定についても、特に子どもたちには手取り足取り教えていただいて進めていきたいと思っております。初年度はどのような地域でも苦勞しているようです。
委員	すごく張りきります子いますよね。はまるっていうか。そういうお子さんが毎年出てくれば、非常に学習効果の高い地域を愛するのはいいことだと思います。先生方は大変でしょうけど。調べるというのはすごくわかりやすくいいですよ。発表したい内容があればこういうふうにすればいいんだ、そういうことにはまる子がいれば、ぜひ、やっていただきたい。
委員	学校の図書室以外の図書館にあれば広がるからね。
委員	すごくやる子いるよね。
山谷館長	みなさんがやればいいんじゃないですか。入賞作品をみると、これを本当に小学生がっていうのが、中学生がっていうのがありますね。それくらいのレベルのものが弘前から必ず出ると思いますので、応募してもらえないかと思います。
委員長	この調べる学習って結構いろんな取っかかりになりそうだなというふうに思いまして。たとえば、議題にあがった運営方針のところで、学校図書館の読書活動の支援というのめあがっていましたが、これを機に学校との連携を深めるきっかけにしてもいいのかなと思います。単にコンクールっていう、今ご意見ありましたけれども、これを機に司書の方を派遣して授業で指導してもらうとか、少し踏み込んだりしてもいいのかなと思ったりもしますし、大人を対象としたというのは、これから図書館っていうのは地域の情報、知の拠点だというふうに言われているわけなので、たとえば短命県をテーマとしてみんなで調べるにはこうしたらいいみたいな、テーマを設けてそういう講習みたいなものがあったもいいのかなと思ったりもする。こういう調べる学習って取っかかりになりそうなのでぜひ期待しております。
委員	教育創生市民会議のほうで今、ひろさき丱学というのを子どもたちに向けてやっていて、調べ学習というので教材をつかってやっていて、こういうところでやっていきたいかな。
委員長	そのひろさき丱学の中で、その調べ学習っていうのはやりましょうということであれば、学校側としてはやってくださると助かるという話だと思います。
委員	いいことかなと思います。きっかけ作りになるのかなと思います。

委員長	その他、調べる学習で盛り上がりましたが、それ以外の事業のことで、あるいはここに書かれていないようなことでも、平成30年度こういう事業を工夫が必要だとか含めて出していただけたらと思いますが。
委員	小学校、中学校も入ってるのかな。図書室のほうの整理を職員の方が、教育委員会の方とそれから図書館の方と来て学校の図書館を整理してくれてすごく使いやすくなった、すごくきれいになって、今みたいな調べ学習に必要なところにエリアにきちっと本を収めてくれたりとか、私の近くの小学校はすごく沢山廃棄の本が出たんですが、子どもさんたち生徒さんがすごく喜んで図書館すごくきれいになって、すごく使いやすくなって見やすくなったというので、子どもさんたちが図書室に行くことが増えたという話がでたりするくらい、事業として図書室の整備事業というのはすごく良いことだったなと目の当たりにして、実感していました。なので、今の調べ学習の事に関しても図書室がきれいになったことによって、整理されたことによって、子どもたちがちゃんと本に目がいくようになった。今まであまり図書室に行かない子どもまで図書室に行って本を手にするようになったというのを聞いているので、いいことをしてきているんだなとすごい感謝していました。 それから大阪屋さんの講演会の件ですけれども席が少なくなかなか入れなかったという人もいたと聞いているのですが、たとえばヒロロの市民ホールみたいなところを図書館が借りて講演会をやるというのもひとつかなと思ったりしたのですが、図書館のこの少ない人数で膝を寄せ合って講演を聞くことが本来のいいことなのか、舞台上で大々的にやる方がいいことなのか、というところで、図書館のほうとしてはよりどういう感じ、人数の多い参加を求めたいのか親密な感じを求めているのかどっちなのでしょう。両方でしょうか。多くというのであれば場所もあるのかなと思うんですが。
山谷館長	市民講座今年度第一回目でしたので、どれだけの方が集まって来られるのかあまりわかりませんで、おかげさまで一回目の講演してくださる方が大阪屋さんの福井社長ということで、60人ということで入ってたんですけど、40人ほどお断りをしました。キャンセルも出たりして結果的には55人だった。当日来られる方もあるだろうと想定して席は10席増やしまして70人まで入れるように席は用意したんです。結果的には55人。ですから、新年度誰を講師に

委員	お招きするかによるんでしょうけれども、それはテーマとか講師をまた考慮しながら、会場を考えていきたいというふうに思っております。
委員	会場を借りるのも、お金っているのもあるのかなと思ったものですから。そういう市民ホールとかを使うと、図書館でやる事業は借料費、会場費とかっていうものがあるのかなと思ったので、そういったことを含めた質問です。
山谷館長	図書館以外でやるとなると会場費がかかります。他にも、マイク一本いくらという細かい料金がかかります。
委員長	図書館が借りてもかかりますか。
山谷館長	そうです。
委員	同じ教育委員会だからかからないと思ったんですけど、違うんですか。 わかりました。そこちょっと疑問だったんで聞きたかったんです。了解しました。
委員	図書館とのつながりとか、利用者を増やすためと考えると、ここに来て興味のあるお話を聞いて、そのあと結局、図書館についてから寄って本を借りていくとか、見ていくとか、ちょっと調べものをするとか、そういうふうにつながるとすれば、ここの場所を使う理由ではあるのかなと。蓋を開けてみたら大盛況であったとか、また第二回とかに企画をしていただくとか、そういう活動の際には人が増えた場合はヒロロで開催すればまた何百円ってかかるかもしれないけど。
委員長	ありがとうございます。
委員	今年度になってすごくいろんなイベントがあって、地方でもすごくお知らせがありまして、委託になってからすごく図書館の方が見える形でアピールされてすごくいいと思うんですけども、ぬいぐるみのお泊り会は、ああ、こんなことやるんだっていう、参加してどうだったのかっていうの見える形でアピールしたら、第二回目があった時にまた参加するんじゃないかな、参加する方が増えるんじゃないかなと思います。それはたとえば市報とかじゃなくてもいいんですけど、図書館とかに写真を撮ってそれを載せちゃうとだめというのがあるなら、こういうのがありましたよみたいな感想とかでも、そういうのが OK な人に書いてもらったりしたら、市報を見ないという人もまたあったら参加しようっていう、また次のイベントの参加者が増えるアピールの仕方なのではないかなと思ったん

	ですけれども、その活動した報告みたいなのをどこかに載せたりしたことはありますか。
菊池業務主任	開催したイベントにつきましては、イベントにもよるんですけれども、館報はと笛、あとは広報ひろさきにも載せています。
委員	今日も下にあるよね。ロビーに飾ってありますよね。
菊池業務主任	開催したイベントは、当日の様子をロビーに展示しています。
山谷館長	ちなみに今お話しされましたぬいぐるみお泊り会ですけれども、これは大盛況でして、申し込みされた方がいっぱいおられました。これも他館では結構やられている行事の一つ、人気の催し物のようです。29年度は本館、弘前図書館でしかやらなかったんですけれども、評判がいいもんですから、新年度については岩木図書館でもやります。弘前図書館と岩木図書館で、新年度は同じぬいぐるみのおとまり会を、それぞれ趣向を凝らしましてやります。実施する方向でいます。
委員	それとたとえば相馬でも子どもが少ないとはいっても保育園もあるし、やってみたら相馬にも行こうかと、スタンプラリーがあるのと同じ形でやってみたらどうかと思いますけど。
神相馬ライブラリー 総括主幹	大盛況ということですので岩木館と連携して、状況を見ながらということになるかと思います。もちろん前向きな形で検討したいと思います。
委員	弘前図書館もやって、岩木もやるということですね。
山谷館長	新年度はですね。
委員	2回やるということですね。
山谷館長	はい。同じ日かどうかわかりませんが、2ヶ所でやります。
委員	館報はと笛のことなんですが、私が学校にいとこれ回ってくるんです。けれども、みなさん目にすることはないのかなと今思っています。であれば、館報にぬいぐるみの様子を写した写真が載っていて、こういうことすれば、じゃ寝たのかなとか、そういう事を委員の方にも送ってあげると、図書館ってこういうことしてるんだということがより一層わかるのかなとふと思ったんです。来てますか。届いてませんか。学校には来るんです。
委員長	今の質問に関連してはと笛はどのような形でどこに配布されるのか。
委員	普通の人は、はと笛はどのようにして見るんでしょうか。
菊池業務主任	図書館のロビーに置いてあります。
委員	持って行っていと。

山谷館長	そうですね。一応、岩木図書館、こども絵本にもそれぞれ置いて自由にお持ち帰りいただくような感じで、本館ではパンフレットを一般に並べてる木製の棚があるんですけども、あれの一番上段のところに目立つように置いてます。
委員長	図書館以外のところだとどこか置いてあるんですか。
山谷館長	図書館以外では常備置いてあるところというのはないですね。できたらばお届けはしているんですけども、常備はしてないと思います。
委員長	もっといろんなところに置いたほうがいいですよ。
委員	置けるような冊数あるのかな。どれくらい印刷しているんだろう。
委員長	予算とかに関連してきます。
山谷館長	1000 部印刷。これも直営時代の発行部数にならってまして、1000 部ということにさせていただいています。
委員長	ちょっと図書館だけに置くのはもったいない感じがしますね。
庄司室長	1000 部をどう割り振るかが難しいところではありますけれども。指定管理料ではですね、この 1000 部をベースに計算されてまして仮に 2000 に増やすと予算、1.7 倍ぐらいですよ。この予算を指定管理者はどう対応するのか、なかなかきつい状況です。工夫して、増刷だけではなくて、そこらへんは少し勉強させていただきたいと思います。
委員	公民館にも確か配布してあります。
菊池業務主任	各公民館に入っているはずですよ。
委員長	各公民館と図書館に配布される。
委員	それは確かです。
委員長	あとは市役所もとなりですので何部か持って行ってもいいかもしれないです。
菊池業務主任	割り振りの部数については、随時検討しながら配布します。
委員	年 4 回で、1000 部ですか。
山谷館長	毎回 1000 部です。
委員	図書館に置いた部数が全部なくなるんですか。残ったのもったいない。まだ別の場所にでも置いて、手に取ってもらえれば。新規の方に向けて、図書館じゃない場所に置くことによって、図書館に来て人だけじゃなくて、それを見て図書館面白そうだなとか、行ってみようかな、ってなったら。
山谷館長	そうですね。なかなか部数が厳しくて。かさいまりさんの分はな

委員長	くなりました。なので、ここの分を削って他に、というふうにはなかなかならない。今は大阪屋さんの市民講座やった時の分も、かなり少なくなっています。
委員	他にございますでしょうか。何かあったらいま言っていたいで。
委員長	大変申し上げにくいんですがよろしいでしょうか。
委員	どうぞ。
	資料 10 ページ。事業実績のロビーコンサートとか広報ひろさきに内容が書いてある絵本作家講習会で、ついこの間の 25 日にあった絵本講習会はどれですか。
山谷館長	12 月までの資料なので、これにはないですね。
委員	実は私、これに参加してちょっとひっかかるものがあったものですから。資料を調べ直したんです。この間廃品回収がありましてそれで全部出しちゃったんですよ。広報とかを。それである 2 月の 25 日に絵本作家のライブがあったと思うんですが。
山谷館長	おはなし会と絵本ライブで絵本作家お二人を招いて。男性がきたじまごうきさん、女性が永井郁子さんです。
委員	それに参加された方いますか。事務方でいらっしゃった方いらっしゃいますか。いらっしゃらないですか。
山谷館長	いました。
委員	苦情とかありませんでしたか。私その時最初から見ていたんですけれども、どう申し上げていいか、お子さまがいらっしゃってどちらかといえば主婦層の私達の年代の方がいらっしゃって、私も絵本の読み聞かせをやっているものですから勉強になるかなと思っていたんです。知人を連れて行きまして、主婦層の方、関係者の方、絵本の読み聞かせをしている方、お子さま少なかったんですよ。何かと言われればうろ覚えで申し訳ないんですが。始まったら一人お子さまが舞台へ上がってしまうんですよ。見ていた方ははっきり覚えてるんですが、女のお子さんが舞台へ上がってしまっただ邪魔になるわけですよ。やってるのに茶茶をいれるというか、集中できなかったんです。楽しめなかったんです。はっきり言って。いろんな意見があると思うんですが、二人ともこういうことは今までないとおっしゃったんです。いろんなお子さんいらっしゃるし、病気を持ってるお子さんもいたりする。その時の気分で具合が悪かったりするお子さんもいらっしゃるのでお子さんがどうこう申し上げるつもりはないんですが、長い時間見てたのでお子さんが事務

山谷館長 委員	方の職員のお子さんじゃないかと思ったんです。それで講演会自体をその職員、お母さんらしき方がですね、ビデオで撮っているんですよ。ですから、それはお仕事なんだと思うんです。その時も、そのお仕事なさっているので静かにしなさいというんですけども、大分舞台のほうをうろうろしたんですね。ちょっとあれは、図書館の主催なのかなと思って。あれはちょっと、お子さんには責任はないんですが、やり方としては、見ている側としてはハラハラしてしまって半分くらいしか楽しめなかったというのがあった。折角、今聞いたら事業をいろいろいっぱいやってらして、私あの全部参加したかったというのがあって大阪屋さんのお話もわかってましたし、そういうレベルの高いことをやっていらっしゃることはわかってたんですが、あれだけぼんと見せられると、いつもああなんだというイメージっていうのがあるので、あれはちょっと大変残念だったなというのがありました。それで図書館のほうに苦情をどなたも言う方がいなかったのかなと思って、お子さんどうこうというのではなくて、ドキドキしてしまって次この子何するんだろうみたいな、そのお子さんがどうこうというんじゃなくて、安心して見ていられないということが非常に残念でした。で、主催でその絵本作家のきたじまさんですか大変困っておられる様子で、舞台上でいたずらをするそのお子さんの手をぴしゃっとたたいてるんですよ。そうなりとちょっと見てる側もひやっとするとか、大変困りました。ですので、折角レベルの高い、質の高いものをやっていたのでああいう感じのはちょっとどうなんだろう、どういうふうに思われるのかなと思って、反省会ではないですけど、今日の講習会どうだったとか、話の中ではどういうふうになってたのかなとはちょっと気になって。大変申し上げにくい。大変楽しみにしていたので。 実は私どもの職員、スタッフの子どもではなくて、当日放送局の取材が入って、ビデオを回していたのは放送局の方なんです。放送局の方がお子さま連れて来られていたんですよ。で、お母さんが仕事でビデオ回したりいろいろしてるものですから、多分お子さんは機嫌が良くない、悪かったんでしょうか。いろいろやってるんですけど、なかなかだめで、お母さん苦慮されたと思うんですが、ああいう感じになったということでした。 外部の方は、弘前図書館の職員だと思ってるんで、なんで他の職員の方が代わってビデオ撮らないんだろうかと思って。
-----------------------	---

委員	多分なんですけど、私、市民団体ですけれども、放送局の取材があった時に、同じことがありました。同じ方だと思います。その時は、こちらでみてあげていましたが。
委員	私がいたら私一人だけ、そのお子さんの面倒みます。
委員	お子さんに罪はないし、お母さんいるいないに関わらず、お話しそのものに来た子どもさんで、ちょっとどうしても落ちつかないお子さんとか様々な子どもさんがいるのは想定して、主催する側はするんです。なのでどんな人が来ても、どんなお子さんが来てもこれはこれ、スタッフ主催者側が子どもさんを対処するというのが、私は暗黙の了解だと思っていて、よそのお子さんであれ、悪い事をしている場合にはやはりその場から連れ出すこともありますし、なだめる事もありますし、抱きかかえて一緒に見ようねっていうようなことでの指導もするっていうところで、多分、そこに居合わせた人たち全員が大人が遠慮しちゃったんだろうなって。心の中では思っ ていてもなかなか手を出せない、余計なお節介おばちゃんがある場にはいなかったという気がします。さびしさはありますけれども、やっぱり図書館は職員、私たちボランティアが主催した場合はすべてを想定して、どんなことがあってもやらないといけない事を覚悟して、やらないといけないということなので、図書館の職員もスタッフなのでそこはもう一回心引き締めて、そこにお母さんがいるいないに関わらず、そういう人がいたらどうしたらいいのかっていうのはやはりノウハウはあるべきだし、指導も必要だし、心得ておくということじゃないかなと思います。唯一、若いお母さん、たとえば我が子が騒いでいた時に、よそのおばちゃんが抱えこんだ、おさえこんだ、連れ出した、お母さんはどう思うんですか聞きたいです。 たとえば、よそのおばちゃんが手を出したらどうする。おはなし会ってお母さんは子どもをおいて、お母さんはいないことが多いんですよ。お母さんがいない子に限ってうるさいんですよ。羽目外すんです。なので覚悟して私たちはやってきたんです。 今の苦情にしても外の人たちにしたら折角の機会にそこはやはりそこにいるスタッフさんの責任ってことは、私厳しいことを言う とあるんじゃないかなと思いますね。 これは職員やスタッフの方が対応すべき案件だったと思います ね。 よろしいでしょうか。案件 5 その他に参りたいと思います。 お手持ちに、古文書のシンポジウム、こちらを行いました。長谷
委員長	
庄司室長	

	川成一先生の基調講演などお話をいただきました。実際に会場にお出でになった方は 60 名程度の小さな会場だったんですが、陸奥新報さんのほうの報道、アップルウェーブの特集、最初から最後までアップルウェーブさんのアップルストリームの生中継、それから現在、生中継の音声を利用して特別番組シンポジウムという形で、2 時間ほど、4 月の 14 日くらいのサタデーナイトウェーブを使って特別番組を放送する予定です。まだ話はしてないのですが、そういう形でここに加えた 40 人に加え何百人何千人の方に古文書デジタル化を知っていただく。なお、ここに小さく QR コードが印刷されています。こちらを携帯で読めば適宜、見ることができます。それからこちら側のチラシ、ADEAC さんのほうでデジタル化のデータを取り扱っている図書館、文学館のリスト、全 184 館です。非常に大きな発表です。資料は全部横断検索もできます。国文学研究資料館その他の大きいデータベースとも検索が可能となっています。
委員長	何かこの古文書デジタル化に関する一連の事業についてご質問やご意見等ありますでしょうか。 何かこれを機にある程度繋がっていると思うんですけど、図書館を中心とした様々な専門機関の方々と、本当の意味のネットワークを作っていくような、地域資料をもとにネットワークを作っていくような仕組みができあがっていくといいなというふうには思います。
委員	その他議題としては以上となりますけれども。 大型絵本 1 ヶ月に何冊も読む機会がありまして大変重くて選書するのも大変で、それは自分のあれなんですけど、図書館のほうにもう少し、大型絵本を子どものところにおいていただきたいのと、書庫から持ってきていただくのは忙しい職員の方に気を遣うんです。気を遣わなくていいとおっしゃる方もいますが、触ってみて借りればいいんですけどやっぱりいいやみたいなのもあるんです。ですので、子どものところに大型絵本をもうちょっと置いていただいて選書してボランティアが読むほうが少しでも負担が減るし、書庫から出していただくという手間が省けるので少しスペースを作っていただいて。いつも同じのを置くのではなくて入れ替えなさってるのかもしれないけれども、それは少し流動的に開いて読んでみてこそ選書するものですから。岩木はいいんです。岩木はとてもあっていいですから、ぜひ弘前図書館もスペース的に大変だろうなどは承知してるんですけども、もう少しおいていただけると非常に助か

委員長 山谷館長	ります。ちょっと聞いたら職員の方よく言われるんですが、スペースがなくてっておっしゃってたんですが、希望です。 他にないですか。よろしいですか。 今日、平成 29 年度意見箱の内容は触れられていませんでしたけれども、どうでしょうか。 今、お配りしたのが今月 21 日現在ということで私ども指定管理になってからですね、利用者の要望を図書館運営に役立てるとい う、本館だけではなくて岩木図書館、こども絵本の森もこういった市民の声を聞くというふうにしております。弘前図書館ですと閲覧室入口近くにテーブルがありましてそこに今までご意見いただいたものをすべて掲示板に貼っております。要望に対して図書館からの答えを書いたものを掲示しまして、過ぎたものに関していえば、バインダーに綴じていつでも見れるようにしておりますが、それを総括してまとめたものがお配りしたものです。これでいいますと 3 館合わせて 309 件ですので、現在で平均一日 1 件くらいのご要望ご意見をいただいているということになります、4 つの項目に分けてここに書き込んできました。スタッフ対応というのは、説明を求めたお客様との対応について、それと利用者間でのマナーについてのご意見があり、新聞、雑誌を破っているとか、学習室で騒いでいるとか、利用者のマナーについて図書館利用者からご意見ありました。あと施設ですね、トイレに手拭きを用意して欲しいですとか、トイレの水の水圧が弱いですとか、いろんな施設に関する意見。あと図書の関係です。もっとアニメの本を増やして欲しいなどのご意見を含めてです。図書関係というのは本だけではなくて、新聞雑誌も含めて図書関係ということで、弘前図書館、岩木図書館、こども絵本の森を見て思っていますが、というご意見に対応させてもらいますというのが、改善等ということになります。多いのか少ないのかわかりませんが、3 館合わせて 18 件の利用者の要望に対して具体的に対応させてもらいますということでもあります。他に利用者からの意見を聞く手段としてはですね、年が明け 1 月 5 日から利用者からのアンケートを実施いたしました。その集計が出てまいりますので、あわせて、みなさんのご意見ご要望を調べて次年度以降の図書館運営に役立てていきたいと思っています。 スタッフ等の対応については、全部は覚えていないんですが確かに図書館のいただいた分、お褒めの言葉もありましたが、私どもが担当してます 1 階と市のほうで担当してます 2 階の調査室を含めて
------------------------	---

委員 委員長	やっぱり利用者に対する対応が良くなかったというのもありました。 恐らく悪いことは書くけどいいことは書かないような気がするんです。すごく良くなったと私は思うので、この裏にはもっといい意見もあると思います。 こういう意見を参考にしてですね、是非より良い運営をしていただければと思います。これでよろしいでしょうか。 では2時間が経とうとしているので、これで会議を終わります。 (館長あいさつ、事務局連絡 省略)
----------------------	---